

# 令和6年度 第1回成田市男女共同参画計画推進懇話会 会議概要

## 1. 開催日時

令和6年5月16日（木）午後2時～3時

## 2. 開催場所

成田市役所 議会棟3階 執行部控室

## 3. 出席者

（委員） 渡辺委員、城委員、佐久間委員、村島委員、加瀬委員、滝田委員、平山委員、内田委員、佐藤委員、鈴木委員、狭山委員、白鳥委員、三村委員、篠田委員

（事務局） 小泉市長、谷平部長、平岡課長、菅澤主幹、天河主事

※欠席者 古山委員、谷委員

## 4. 議事

（1）会長・副会長の選出について

会長に渡辺委員、副会長に村島委員が選出された。

## 5. 報告事項（要旨）

（1）成田市の男女共同参画について

事務局から、成田市の4つの男女共同参画事業の説明及び男女共同参画講座として本年度は、年間テーマを「みんなが個性を生かせる未来をめざして」と設定し、2回のセミナーと2回のワークショップを中心とした勉強会を開催する旨の説明。また、6月、11月、2月に発行している情報誌「さざなみ」のほか、毎週木曜日に実施している女性のための相談や、男女共同参画センターの運営についての説明を行った。

（2）第4次成田市男女共同参画計画について

事務局から、令和3年度に策定した第4次成田市男女共同参画計画について説明。計画の策定にあたり令和2年度に市民、中学生、市内事業所を対象に実施したアンケート調査の結果概要及び計画の基本理念、5つの基本目標、15の施策の方向性について説明した後、次期計画について令和7年度に策定を予定

している旨説明した。

## 6. 質疑等

主な質問・意見は以下のとおり。

(佐藤委員)

今年度からの取り組みとして、予定している男女共同参画講座の勉強会は具体的にどのようなものか。

(事務局)

今年度から開催するもので、主に男女共同参画推進員や男女共同参画講座の年間受講者など男女共同参画に興味がある方を対象に声掛けをして、本市の男女共同参画の実現に向け、ワークショップを中心として開催する予定である。6月中の開催を予定しており、改めて案内したい。

(佐藤委員)

34 ページ成果指標について、女性委員がいない審議会が平成 27 年度から令和 2 年度に増えている理由は。

(事務局)

委員の改選にあたって充て職等で以前は女性が務めていたが、男性に代わってしまった、女性委員の希望がなかったなどが考えられる。

(佐藤委員)

各審議会にはそういった意識はあるのか。

(事務局)

庁内には審議会が多数あり、毎年、女性の登用について庁内通知により働きかけを行っているところだが、団体からの推薦もあることから、その時々状況によって、男性もしくは女性が選出されることになる。女性の登用率を上げるためには女性の選出を意識していただくことも必要であり、本年度も働きかけをしていきたい。

(内田委員)

第 4 次計画の事業の中の削除された項目、追加された項目や成果指標についてであるが、すでに含まれない項目が残留していたり、事業実績で成果状況がよくわからなかったりする。また、活動指標について全体の 1/3 が事業実績になっており、事業の活動が明確でなく、委員が確認できないような項目がある。次期計画の策定には整理してほしい。

成果指標はなくてもいいだろうと思うものがある。39 ページ基本目標Ⅱ「あ

らゆるひとが仕事と家庭を両立できる環境づくり」のうち、施策の方向性1「ワーク・ライフ・バランスの推進」の中で、児童ホームの待機児童者数を直接伺うような内容の指標がない。また、事業 No.10~18 の中に従来あったと思われる児童ホームの待機児童数について、成果指標に入れているが、事業には含まれていない。内容を精査していただき、齟齬がないような内容にしてほしい。

(事務局)

事業実績について、事業の進行状況が数字で見えづらいものについては、成果指標として記載しているものもある。待機児童数の解消については、子ども・子育て支援計画にて事業を進めており、本計画では成果指標として推移が数値として見えるように掲載している。次期計画策定の際に齟齬がないように整理していきたい。

また、成果指標もそうだが、次期計画には事業を追加していく必要があると考えている。40 ページの子育て支援施策のほか、高齢者施策も重要である。今後も、本市の子育て支援をどのように充実させていくのか考えていく必要があるが、人口減少社会のなかで、人口を増やしていく施策が大切である。子育てがしやすく、また、高齢になっても住み続けたいと思ってもらえるように、高齢者の施策もしっかりと整っていることが大事である。例えば、日中、高齢者の方がお子さんを預かり見守るなど、元気な高齢者の方が、子育て支援に参加し、活躍する他市の先進的な事例もある。次期計画ではあらゆるひとを対象とする男女共同参画の視点を大事にして、どのような事業を入れて、成果指標をどう設定していくのか、国、県との比較を入れていくことも必要であると考えており、検討していきたい。

(内田委員)

児童ホームの待機児童は70人ほどいるのは事実である。先日、児童ホームの会議に出席したが、児童ホームだけではなく保育施設に入れない児童がおり、男女共同参画事業にとって、とても懸念事項である。

母親が子どもを育てる一番大事な時期は0歳~3歳だと思う。女性が会社に入社し、10年程働きその間に結婚し、出産する。そうすると本人や事業主にとって、キャリアとして重要な時期に子どもの世話を3年間、強いられることになる。女性の経歴として本当なら、管理職を目指して仕事させるべきだがその3年間仕事ができないのは非常にもったいない。

子どもが生まれたときに、養育するための施設が整っていないことから、その人がずっと続けて働き続けることが難しくなっている。

そういったことを踏まえて、市の事業として児童ホームをはじめとする保育施設の充実に重点的に力を入れてほしい。

また、市内の病院では多数の看護師の方が働いている。女性は女性としての仕事場はよく知っていて、自分を生かすための仕事をされている。しかし、残念ながら子どもが生まれた時に、子どもを養育するためのいろいろな施設が完全にならない限り、その人がずっと働き続けることが非常に難しい時代になっている。それらを考えると、市の事業の充実がとても望まれる。児童ホームをはじめとする保育施設にもっと重点的に力を入れていただきたい。

**7. 傍聴者** なし

**8. 次回開催日時（予定）**

令和6年10～11月